

災害救急情報システム

今日の複雑多様化した都市災害に対処し、あるいは救急医療に対する都民のニーズに応ずるには、現在の経験に頼る手作業の処理だけでは十分とはいえなくなっている。

このため東京消防庁では、(1)都民に対する情報提供、(2)119番受付業務の効果的な運用、(3)中央の災害救急情報センターと各消防署間の指令連絡の強化、を目的とした災害救急情報システムを開発し、昭和51年10月から運用に入った。

その機構は、東京消防庁の災害救急情報センタとHITAC 8450及びH-9415ディスプレイ装置(VDT)を有機的に結合したオンライン・システムである。これにより、約800台の車の運用計画や状況をすべて大形コンピュータに記憶させておき、指令員の問合せによりVDTに表示し、最適な出場指令を迅速に出すための手段を提供する。このためコンピュータには、災害の種類・規模・発生地に応じた約2,500通りの出場計画表や、都内56署の端末から入力された車(隊)の現況が記憶されており、災害発生と出場車の関連、災害情報の記録が中央で一括処理されることにより、119番受付や指令業務は大幅に効率化される。また病院端末や署端末から収集された都内約430箇所の救急病院の情報も、中央で一括管理している。これにより救急管制台では、科目ごとの診療の可否、男女別収容の可否を知ることができ、救急車に対して患者を

収容する最寄りの病院を速やかに指示することができる。また、これらの病院情報は、消防テレホンサービスの案内台にも問い合わせることができ、一般都民への情報提供にも役立つ。

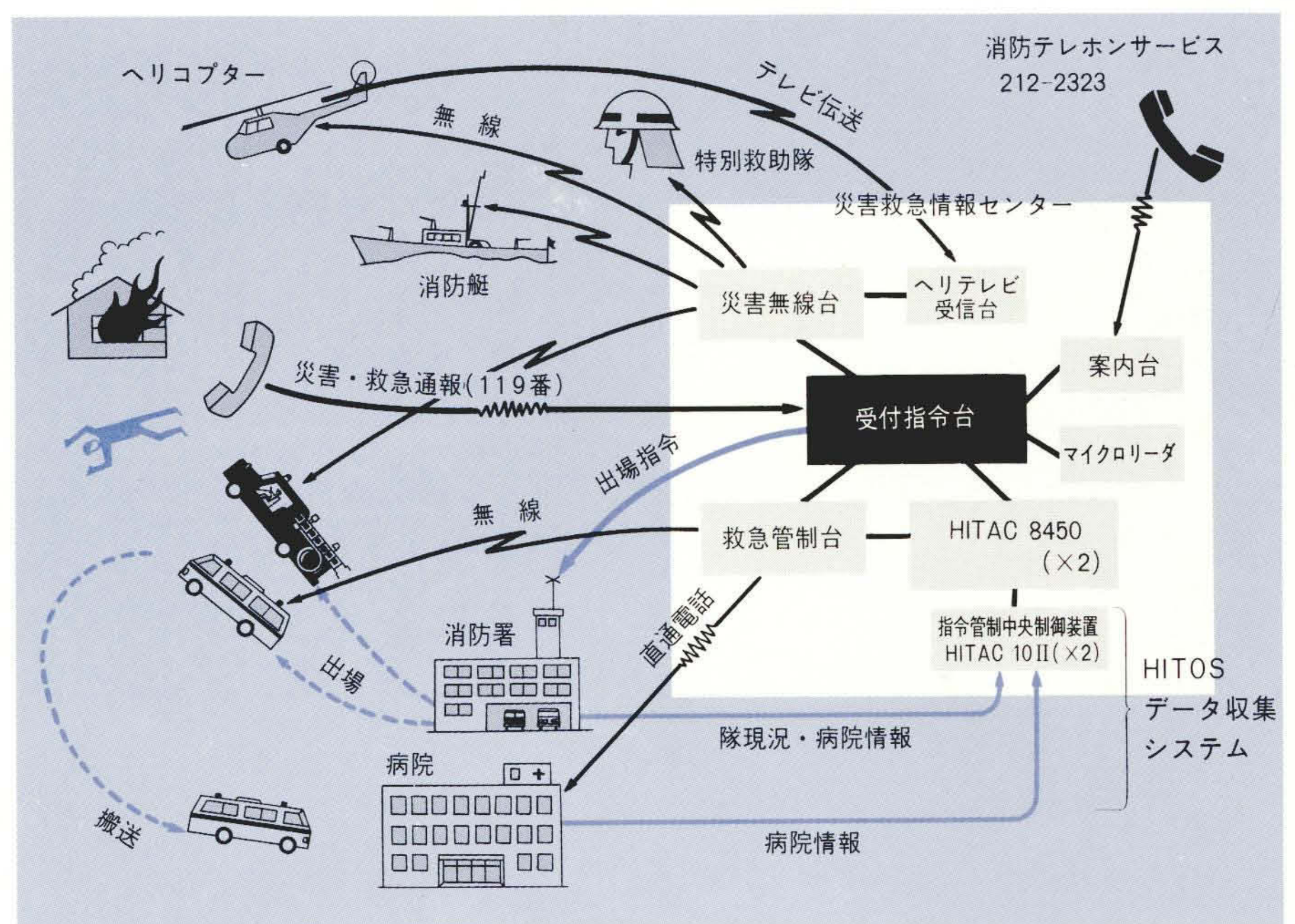
本システムの大きな特徴は、従来の119番受付、消防指令電話及び無線電話などの音声を中心とした通信システムに、災害情報、病院情報及び車の現況などを管理するコンピュータ・システムが有機的に結合されているところにある。

中央の指令員は、これらコンピュータに記憶されている情報の中から、必

要なものを即座にVDTに表示させることができ、災害に対して、一段と効果的な指示活動が期待できる。

本システムは24時間運転のため、情報収集用HITAC 10II及び処理用HITAC 8450の二重化、システム・コンソールによる障害監視及びワンタッチ切替、ソフトウェア障害時の縮退処理による全面ダウンの回避などを実現し、信頼性の面からも種々の配慮がなされている。

現在は東京都23区を対象としているが、今後、都内全域にも範囲を拡大すべく計画が進められている。



災害救急情報システム構成図

